

## 1班：「目指すべき IR 室の役割と体制」

○浅野昭人（立命館大学）、川本康博（琉球大学）、木梨憲一（就実大学・短期大学）、向後光典（茨城大学）、松永雅弘（長崎国際大学）

### 1. 議論結果の概要

◇参加者から示された個別課題認識

- ① 各部局から情報を収集するにはどのような工夫をしたらよいか
- ② 各部局が問題意識を持ち、IR 室に情報提供を求めて貰うにはどうしたらよいか
- ③ 個人情報保護を盾に学生の情報開示に非協力的な場合の対応
- ④ 大学全体として、トップの問題意識をどのように共有していけばよいか。トップダウンとボトムアップを繋ぐ役割を担う IR 室の位置づけとは
- ⑤ 組織改革と IR の関係性について
- ⑥ 学内に限らず、学外の機関との情報共有をどのように進めていけばよいか
- ⑦ IR 室の役割や位置づけ、特に各部局との役割分担についてどう考えていけばよいか
- ⑧ データを集中管理することのメリット・デメリットについて
- ⑨ 文科省との各種折衝(予算・学部学科の新設・改組など)と IR の関係性について
- ⑩ データの経年変化がみられるデータベース構築の必要性

### (2) ポスター作成のプロセス

ポスターの作成にあたっては、各参加者から示された課題認識に対する意見交換を行い、その中でも特に重要と思われる項目（IR 室設置の目的、その役割、支える体制と課題）に分けて議論を重ね整理を行った。

### (3) 報告内容

#### ① IR 室設置の目的

IR 室は、「情報提供による支援を“専門的”に行う部署」であり、各部局からのデータリクエストに応じて、IR 室が情報を提供し、それを基に各部局が意思決定を行うことを支援するために設置する。

#### ② IR 室の役割

茨城大学「大学戦略・IR 室」では、評価・IR・組織改革の三つの役割を担っている。これは、評価・IR が「大学改革を行うための根拠となる情報の作成」と「学内の合意形成を得る“ツール”としての情報の作成」の二つの役割を担っているからである。また、これら情報を基にトップは意思決定を行い、組織改革を進めている。

これら IR 室の役割は、トップの求める情報提供、文科省との折衝や交渉時の根拠資料の準備に加えて、組織改革を進める際の大学執行部と各部局との話し合いを進める上での「潤滑油」の役割を担っている。その際、特に重要なことは、執行部と各部局が情報共有を図ることに加えて、IR 担当者が日頃から、各部局と緊密なコミュニケーションをとることである。

なお、班における議論の過程では、規模の小さな大学では、情報収集と分析を各部局で行う方が効率的かつ効果的であるとの指摘もあった。しかし、当該部局の意向が強く反映され、情報に客観性が失われる危険性もあるとの指摘が示された。

### ③ IR室の体制と課題

IR室は、学長直轄の組織なのか、他の部局と同様に並列に位置付く組織である方がいいのか、その組織の意思決定のあり方（トップダウンなのか、ボトムアップなのか）にも関わる問題であるとの指摘があった。

また、スタッフの確保・育成に関しては、必要な技能や知識を持ったIR担当者が絶対的に不足しており、教員だけに頼るのではなく、専門知識を有した職員を確保・育成し、教職協働を進める重要性が示された。その際には、職員のキャリア形成（総合職だけでなく、専門職を育成する）についても検討が必要である。

さらに、個人情報保護を理由とした情報の非開示は、組織改革を進める際の根拠データに基づかない意思決定に繋がる恐れもあり、個人を特定せずに、入学から在籍、卒業に至る一連の個人データを統合して収集・分析を行うという「学内の学生情報を共有することの合意形成」が必要であるとの結論に至った。

## 2. 評価やIRを改善に活かすためのコツ、感想、一番重要だと思ったポイント

評価やIRの真の意義は、組織改革を進めることにある。組織における意思決定のあり方が、トップダウンであろうと、ボトムアップであろうと、物事を確実に進める上で重要なことは、構成員間のコミュニケーションを円滑に図ることである。このコミュニケーションを円滑にする「材料」が、IRによって得られる情報であり、この情報に基づくコミュニケーションを図る役割をIR担当者が担うことが求められている。

以 上

# 1 班

## テーマ「目指すべきIR室の役割と体制」

### 1 IR室設置の目的

情報提供による支援を“専門的”に行う部署

データリクエスト → IR → 情報提供 → 意思決定

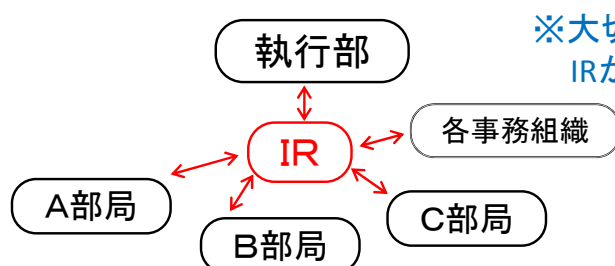
- データリクエストが不十分な場合もある。(大学の実情による)
- 大学改革総合支援によるポイントを獲得するため(私大)

### 2 IR室の役割

・評価・IR・大学改革を担う。

【大学改革を行うための根拠となる情報の作成  
合意形成を得る“ツール”としての情報の作成】 (評価・IR)

- ・トップの求める情報の提供
- ・文部科学省との関係をよくする役割(エビデンス)
- ・執行部と部局との潤滑油的役割



※大切なのは日頃からのコミュニケーション  
IRが潤滑油的役割を担って！

### 3 IR室の体制と課題

- 大学組織の中での位置付け(体制)
  - 学長直轄なのか否か？
- スタッフの確保と養成
  - ・IR室の人材に求められる素養
  - ・教職協働
  - ・学内データを共有することに関する必要性の認識
  - ・専門職の必要性(新しいキャリアプラン)